

共同議長サマリー
第 15 回 ODA 評価ワークショップ
2018 年 2 月 7, 8 日, スリランカ (コロンボ)

第 1 セッション: ODA における評価の役割と国際的な潮流

本議題では ODA における評価の役割と国際的な潮流について議論が行われた。

- 国際連合開発計画のアリルド・ハウゲ氏は、「持続可能な開発目標（以下、SDGs）」の課題と評価の機会について発表を行った。発表では、「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」の構造に関し、その宣言部分、SDGs とターゲット、実践とフォローアップとターゲットの見直しについて評価のための課題を中心に説明がなされた。
- アジア開発銀行のマヤ・ヴィジャヤラガバン氏は、SDGs に関連する 3 つの主要なメッセージ、すなわち、SDGs を評価のための新たな機会と捉えられること、国際的評価コミュニティにおいて、より良い学習を求めること、付加価値を高めるきっかけとなる点を提示した。同氏は包括的な成長、民間の収益性と開発の積極的な連携、地域協力の効果等におけるアジア諸国における評価からの教訓について発表した。
- スリランカからの発表者であるシヴァニャーナソーティ氏は、評価に於ける学習と説明責任間のバランスについて、同氏の見解を共有した。彼は、SDGs 評価の時代における合同評価と参加型評価を強調した。議論の中では、説明責任と評価能力開発のための合同評価の重要性が示された。
- 独立行政法人・国際協力機構（以下、JICA）の新井和久評価部長は、SDGs の複雑な性質、共同作業に対する評価と機会の重要性が増していることについて、発表者と共通の課題であるとコメントした。

第 2 セッション: SDGs への対応と取組ーインドネシアにおける取組とその課題ー

本議題では、インドネシア政府による SDGs の計画、実践、モニタリングと評価のプロセスと進捗状況が提示され、議論が行われた。

- 広島大学の石田洋子教授は、現在 JICA が同国で実施中の「持続可能な開発目標 (SDGs) の計画・運営促進に係る情報収集・確認調査」からの発見・気づきについて、インドネシア政府の国家の制度構造、グローバル指標の国・地域レベル指標での代替化、仕組みと手順、モニタリングと評価における課題を中心に発表を行った。
- インドネシア国家開発計画 (BAPPENAS) のリザング・リハットナロ氏は、インドネシアにおける SDGs の実践・モニタリング・評価の監督官庁である BAPPENAS の立場から、石田教授の発表についてのコメントを述べた。その中で、インドネシア政府は、SDGs に関するデータの収集・報告のみならず、SDGs の“誰一人取り残さない”という点に重きを置いている点を強調した。
- スリランカ評価協会のイシャ・ウェダシング・ミランダ氏は、インドネシアは SDGs

のモニタリング・フォローアップにおいて他国よりも一歩先んじているとコメントした。また、ジェンダーの問題をどのように扱うかについて言及する必要があること、グローバル指標の国・地域レベル指標での代替化のプロセスと基準について、とりわけインドネシア政府がいかにしてそれらのマッピングと関連づけを行ったのか、即ちどのように解釈したのか、そしてそれらの指標をどのように選択・変更したのかについて、明らかにする必要があると述べた。

第3セッション： 各国における SDGs への対応と取組

本議題では、SDGs のフォローアップとレビューに関するアンケートの参加各国の回答に基づいて、評価の文脈における各国の SDGs への対応と取組について発表がなされた。

- 外務省の日野類子主査は、各国における SDGs への対応と取組の傾向について簡潔に発表し、フィードバックシステムの確立の重要性について強調した。
- バングラデシュ、ブータン、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ネパール、パキスタン、フィリピン、タイ及び日本からの参加者は、SDGs の評価の文脈における各国の取組と対応、その課題について情報を共有した。数か国の参加者からは、データ管理が自国の課題であるとの発言があった。

第4セッション： ODA 評価の多様性—プログラム/プロジェクトレベルの評価の取組

本議題では、プログラムレベルとプロジェクトレベルでの多様な ODA 評価について議論が行われた。

- JICA 評価部の野田光地企画役は、インド・デリーにおける高速輸送システム建設事業のプロセス分析を事例として新しい評価のアプローチについて発表を行った。同氏は、評価の目的とされる説明責任と学習のバランスをとるために、従来の事後評価によってもたらされた教訓をプロジェクト・エスノグラフィー（※）を通じたプロセス分析が補完する点を強調した。
- 外務省の村岡敬一 ODA 評価室長は、外交の視点からの ODA 評価について発表を行った。同氏は外交の視点からの評価への要請について、また最近の 2 つの事例について紹介を行った。
- ネパール財務省のラム・プラサド・マイナリ氏は、定量分析と因果関係分析の重要性について言及した。

※注 人類学のフィールド調査の記録手法であるエスノグラフィー（民族誌）を用いて開発プロジェクト（事業）の実施プロセスを記録する手法。